



奈良県立大学情報誌

第3号

コモンズー学びの共同体ー

第10回産学連携セミナー最優秀賞受賞報告

(「着地型観光と歴史ガイドツアー ～あすか歴史探検隊～」)

特
集

県大生の取り組みを紹介！

王寺町：しあわせの王寺計画

御杖村：となりの寺子屋事業



文部科学省

地(知)の拠点

コモンズ
ー学びの共同体ー
Contents

- ◇ 奈良県立大学キックオフ・シンポジウム開催報告 … (2)
- ◇ 第10回産学連携セミナー最優秀賞受賞報告 … (3)
- ◇ 県大生の取り組みを紹介 王寺町(しあわせの王寺計画) … (4)
- 御杖村(となりの寺子屋事業) … (5)
- ◇ 新任教員の紹介 … (6～7)
- ◇ 地域の声(宇陀市役所企画課 内田珠里さん) … (8)

奈良県立大学

「コモンズ制大学改革・地(知)の拠点整備事業」

キックオフ・シンポジウムー地域に密着する大学をめざしてー開催報告



▲ 伊藤忠通学長の基調講演

平成26年3月30日(日)、本学3号館2階ホールにて奈良県立大学「コモンズ制大学改革・地(知)の拠点整備事業」キックオフ・シンポジウムー地域に密着する大学をめざしてーが開催されました。

シンポジウム第1部の伊藤忠通学長の基調講演では、本学が今年度から導入をしている特色ある教育システムー「学習コモンズ制」ーに基づいておこなわれる大学改革のビジョンについて説明がありました。さらに、文部科学省に採択された地(知)の拠点整備事業(大学COC事業: Center Of Community)を推進していくにあたり、各地域の課題解決へ向けて、本学のこれからの取り組み強化を述べました。

第2部では、「学習コモンズ制」の柱となる4つのコモンズ(観光創造コモンズ・都市文化コモンズ・コミュニティデザインコモンズ・地域経済コモンズ)の取り組み領域に当たる各地域と本学との連携事業事例に関するプレゼンテーションがおこなわれました。観光創造コモンズは下田正寿氏(明日香村商工会経営指導員)と麻生憲一教授、都市文化コモンズは鷺見哲男氏(公益社団法人奈良市観光協会専務理事)と岡本健講師、コミュニティデザインコモンズは中尾七隆氏(一般社団法人うるわしの桜井をつくる会理事)と玉城毅准教授、地域経済コモンズは森本彰一氏(宇陀市企画財政部次長・まちづくり担当)と津田康英准教授がそれぞれ発表を担当されました。



▲ 連携事業事例のプレゼンテーション

また、第3部では、伊藤忠通学長をコーディネーターとし、パネリストとして平井康之王寺町長、野村政樹奈良県地域振興部長、そして本学学生の代表として井上美智さんの三氏を迎えてパネルディスカッションが開かれました。それぞれの立場から、「地域に密着する大学」としての本学のあるべき姿について闊達な意見交換がおこなわれました。

当日は雨風が激しく、あいにくの天候でしたが、地域の方々はもちろん、他大学の地域担当者、さらには本学の新入生の姿も見受けられました。奈良県立大学は、今後も、各コモンズの成果報告や地域に対しての発表の場を設けていきたいと考えています。



▲ パネルディスカッション

奈良県立大学が 第 10 回 産学連携オープンセミナーで 最優秀賞を受賞！！



▲ 左：井上美智さん、右：池田恵充さん



▲ 荒井正吾奈良県知事を表敬訪問



公益社団法人日本観光振興協会の主催で行われた「第 10 回産学連携オープンセミナー」（平成 26 年 2 月 28 日、東商ホール／東京都千代田区丸の内）において、奈良県立大学学生（麻生憲一教授ゼミ生）による研究発表「着地型観光と歴史ガイドツアー ～あすか歴史探検隊～」が最優秀賞を受賞しました。

同セミナーでは、全国から各地方予選を勝ち抜いてきた 4 つの大学、大学院の研究発表が紹介されましたが、本学は、昨年の 9 月 4 日に実施された「産学連携オープンセミナー in 京都」で最優秀校に選ばれ、出場権を得ていました。

当日は、麻生ゼミ生を代表して井上美智さんと池田恵充さんが発表をつとめ、自身が取り組んできた事業について、古代衣装をまといながらプレゼンテーションをおこないました。

ーあすか歴史探検隊についてー

麻生ゼミでは、平成 23 年から奈良県明日香村において個性的な活動に取り組んでいます。具体的には、明日香村を訪れる修学旅行生を対象とした歴史ガイドツアー「あすか歴史探検隊（以下れきたん）」と訪日外国人を対象にして日本文化交流を行う“Asuka International Free School(以下 AIFS)”です。「れきたん」では、退屈と思われがちな歴史を、歴史深い明日香村を舞台に、学生である私たちが新たな視点を提供することで歴史の面白さを修学旅行生たちに伝えていきます。また AIFS では、訪日外国人に日本文化に親しんでもらい、日本人学生との交流の機会を提供しています。



私たちは、昨年、京都で行われた産学連携オープンセミナーにおいて、「着地型観光と歴史ガイドツアー～あすか歴史探検隊～」というテーマで発表を行い、最優秀賞を受賞しました。そして、関西地区の代表として、本年度 2 月に東京で開催された全国大会（第 10 回産学連携オープンセミナー）に参加し、再度、最優秀賞を受賞することができました。受賞理由として、明日香村での事業の継続性や地域に根ざした活動が具体的な成果を挙げている点などが評価されました。今後も「明日香村での思い出を楽しいものにして帰ってもらう」という目標の下、積極的な活動を展開していきます。



王寺町「しあわせの王寺計画」

奈良県北葛城郡にある王寺町では「王寺駅周辺活性化研究会」を中心に活動している。現在、観光ルートとイベントの二つをテーマとしている。観光ルートでは“雪丸ロード”の開発に取り組んでいる。事例研究やワークショップなどにより新しい観光ルート開発を行い、観光マップの作成も進めている。イベントでは、6月に王寺町商工会主催の「OJI 雪丸フェス」に参加した。今後はイベント実行委員会のメンバーとして企画・実施に携わる。

▼ 高津専門ゼミ1メンバー



王寺駅周辺活性化研究会 ワークショップの様子 ▶



渡邊 健吾さん 地域創造学部 地域総合学科 3年生 【高津融男 准教授 ゼミ】

私たちが行っている活動は、まさに官学連携の活動です。王寺町役場と研究会メンバーと月1回の会議を行っています。研究会は完全に私たち主導で進んでいるので、やり甲斐を感じながらも責任感を強く持って活動しています。私は、主に“雪丸ロード”という観光ルートの開発に携わっています。活動としては、どのようにしたら観光ルートとして成立するのか、普通ではなく捻りのある観光ルートにするにはどうすればよいのか等を学生たちで考え、話し合い、良案を研究会で企画書として提出し、議論する流れです。私は、この過程の中の考えることが一番重要であり、一番大変だと感じています。観光ルートに必要な要素を考える際、どうしてもありきたりな発想が出てきてしまう所なのですが、それでしてしまうとありきたりな観光ルートが出来てしまい、どこにでもあるモノになってしまいます。それではいけないので、「学生らしい若者らしいアイデアが欲しい」と町役場と連携させてもらっていると考え、頭を振り絞って案を練っています。大変ですが、非常に面白い作業です。他人の意見や考えに耳を傾けることで、自分の価値観も磨くことが出来ます。それによって相乗効果で、さらに良い案が出ることもある。研究会でも同じで、様々な立場の人たちの意見を聞くことが出来ます。その様々な人たちの意見や思いで満ちた“雪丸ロード”を作りたいと考えています。

御杖村「となりの寺子屋事業」

御杖村で寺子屋事業をやり始めて二期目を迎える。本事業は、御杖村で進める若者定住促進プロジェクトの一環で、村内の子供たちが大学生との交流を通じて、御杖村の良さを実感し郷土への誇りを育むとともに、将来的にこの地に定住し、次世代につながる愛郷心を育むことを目的として開始された。今年は、子供たちが御杖村の歴史や産業、観光名所などを大学生や地元の方々から学び、来訪者に対して御杖村ガイドを行う予定である。



▲ 御杖村の子供たちと一緒に明日香村を探検



◀ てらこちゃんだより

▼ 今年3月の修了式の様子



唐 揚東さん 地域創造学部 観光学科 4年生 【麻生憲一 教授 ゼミ】

この事業は2013年8月から始まりました。夏には流しそうめんや案山子づくり、秋にはハロウィンパーティーや収穫祭、そして、冬にはクリスマス会や年末大掃除など、その季節に応じてイベントを多く取り入れて子供たちと交流の機会を持ちました。

交流イベントは好評で、子供たちは毎回楽しんでくれています。小学生だけあって、やんちゃ盛りの子供たちばかりで、特に男の子はなかなか私たち学生の言うことを聞いてくれません。役場の方にはどんどん叱って良いと言われていましたが、どうやって叱ったらいいのか、叱ったら落ち込んで寺子屋に来なくなるのではないかなど、思い悩むこともありました。それでも、子供というのは素直なものです。私たちに慣れてくると徐々に言うことを聞いてくれるようになりました。今では新しい学生が参加しても、ちゃんと言うことを聞いて、子供たちの方から積極的に話しかけてくれるようにもなりました。

今までやってきた交流イベントで最も印象に残っているのは去年の11月に実施したポイントハイクです。この企画は、子供たちが、村にある神社などのスポットを歩いて回り、そこで待ち構える私たち学生から出されるクイズに挑戦していくという企画でした。かなりの距離があるコースは難関で、子供たちは疲れて飽きるのではないかと考えていましたが、予想に反して元気いっぱい。とても楽しそうに企画に参加してくれました。本当に子供たちは外で動き回ることが好きなのだと実感しました。

これからもこういった屋外でのイベントを多く取り入れて子供たちと一緒に楽しんでいきたいと考えています。



神吉 優美 准教授

私が高齢者研究に取り組むようになった経緯についてお話したいと思います。

大学院修士課程修了後、まちづくりコンサルタントとして働き始めました。そして、年が明けてすぐ、阪神・淡路大震災が発生し、入社1年目の私も被災地のまちづくりに携わることになりました。私が担当したのは神戸市長田区のある地区。多くの人たちが家を失い、仮設住宅での暮らしを余儀なくされていました。毎週末、避難所になっている小学校の体育館に集まり、住民たちと復興に向けた話し合いを重ねました。その時、あるおじいさんがつぶやいた言葉を今でも忘れることができません。

「あ～、生まれ育ったこのまちに帰ってきたいな。みんないるしな。でもな、家を建て直すお金なんてないから、無理やってわかってる。それでも、みんなが集まる会議があるよと聞いたら、やっぱり来てしまうんや。」と。

私はニュータウン近くで生まれ育ち、それもその当時は若かったですから、どこに住もうとすぐに慣れる自信がありました。でも、このおじいさんは違いました。おじいさんのケースは、震災が原因だったけれども、住み慣れた家やまちを離れなければならない高齢者はたくさんいます。高齢者が住み慣れた家やまちで暮らし続けられるためには何が必要なのだろうかという問題意識をもつようになり、大学院に戻って研究に取り組みたいと思ったのです。そして、大学院に戻ってからは、豪雪過疎地域である秋田県阿仁町をフィールドとして高齢者研究に取り組みました。

現在では、子どもから高齢者まで、障がいがあろうとなかろうと、暮らし続けられる家やまち、暮らし続けたいと思う家やまちをつくっていくことを目的に研究や実務に携わっています。

奈良県立大学の学生たちと、フィールドに出かけるのを楽しみにしています。



佐藤 由美 准教授



2014年4月に赴任した佐藤由美です。

前任の大阪市立大学では、様々な都市問題を対象に学際的・複合的な研究を行う都市研究プラザに8年間所属していました。この間、社会人大学院生として住宅政策と福祉政策の連携をテーマとした博士學位論文をまとめ、2010年に大阪市立大学生活科学研究科後期博士課程を修了しました。それ以前は、民間の都市計画コンサルタント会社で国の住宅・建築等の法律・制度に係る調査・計画策定、全国の地方自治体の住宅・まちづくり政策のもととなる計画や住宅団地計画等の策定に携わっていました。

現在は、高齢社会・人口減少社会等の社会の変化に対し、住まい・住生活や都市・まち等がどうあるべきか、それぞれの地域特性や課題にどのように対応していくべきか、について、都市計画・建築学領域をベースに取り組んでいます。

奈良県立大学では、地域デザイン論、地域福祉論（福祉コミュニティ論）、都市計画論を担当します。例えば、都市計画論の講義では、学生にはなじみの薄い「都市計画」を自分たちにとって身近なものとして認識してもらうよう、毎回、奈良県内の都市計画や全国各地のユニークな事例の紹介を行っています。各事例が生まれた背景（地域課題やその要因）を読み取り、目指した「地域像」や実現に向けて工夫した点等を理解することで、現在、奈良が直面している様々な課題の解決策の糸口も見えてくるのではないかと考えています。学生たちには、そうした「考え方」を学びつつ、フィールドで現実と直面することで、地域をより深く理解し、社会として何が必要か、自分に何ができるのか等を考えながら、地域の専門家として成長していただけたら、と思います。

まずは、学生たちとともに私自身も奈良について勉強を進めていきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

新任教員の紹介

梅田 直美 講師

1995年、神戸大学工学部環境計画学科を卒業。震災後の神戸でまちづくりの研究や活動を続けたいと進学を志しましたが、指導教員の退官等の事情から、一旦は住宅メーカーに就職することとなりました。そこでは都市・住宅に関するマーケティングを担当し、現在につながる貴重な経験を積むことができました。2002年に同大学院に進学、様々なプロジェクトに参画してコミュニティに関する実証研究やまちづくり活動に取り組みました。また、ゼミでは共同体論や公共性に関わる思想など様々な理論・思想を学び議論することができ、以前からフィールドでの活動に取り組む中で感じていた疑問―「コミュニティ」とは何か？といった根本的な問いも含め―について探究していくため、より多様な研究のアプローチを模索したいと考えるようになりました。そこで、博士課程では大阪府立大学にて社会学を専攻して社会理論や社会調査法を学び直しつつ、コミュニティ再生活動と「孤立」についての歴史的研究に取り組みました。その間、まちづくりコンサルタントや大阪府立大学での勤務を経て、2014年4月に奈良県立大学に着任させていただきました。現在は、フィールドでの研究と歴史的研究をつなげる「制度のエスノグラフィ」というアクションリサーチ的研究手法を試みつつ、奈良をフィールドとしたコミュニティ研究に着手しています。



奈良県立大学の学生は、フィールドに出て何かを発見／発信しようとする意欲と、社会制度や理論を学び現場へフィードバックしようとする意欲の双方をバランスよく持ち合わせており、とても嬉しく頼もしく思っています。これから、学生や教職員の方々とフィールドにどんどん出かけ、地域の方々と共に「地域」や「コミュニティ」、「社会」について大いに議論し、その変革に向けて尽力できることを楽しみにしています。

岡井 崇之 講師

1974年生まれ。「社会学」「メディア文化論」「都市社会学」などの授業を担当しています。

京都府の最北端に位置する京丹後市に生まれ育ち、大阪で大学生活を送りました。大学時代の恩師との出会いなどを経て、「メディアと社会の関係を研究すること」を自分のライフワークと決めました。その後、東京にある大学院で研究者としてのキャリアをスタートさせたことから、愛着のある関西と縁遠くなっていました。そんななか、地域を志向した教育・研究を掲げ、教職員の皆さんが一丸となって取り組んでいる奈良県立大学に着任し、喜びと同時に熱い思いがみなぎっているところです。



このように、もともとメディア社会学を専門としていましたが、最近は身体やジェンダー、スポーツなどに領域を広げ研究しています。これから取り組みたいテーマも、スポーツ・ツーリズム、地域におけるメディアの役割、若者文化／サブカルチャー、メディアがつくる奈良のイメージ…など、構想は尽きません。「コモンズ」というユニークな空間のなかで、所属するコモンズ内の、あるいは他のコモンズの先生方や学生たちとの交流を通じて、自分がこれまで温めてきたものが「化学反応」を起こすことを楽しみにしています。

前学期に担当している「社会学」では、基礎的な知の教授を重視しながらも、さまざまな社会問題やそれらに関する専門的な文献をできるだけ紹介しようと心がけていますが、「もっと専門的な本を読みたい」という受講者が集まり、早くも自主的な読書会がスタートしようとしています。問題意識を持った学生たちが集まって研究の萌芽となるような何かを始め、教員がそれをそっと見守る。簡単そうに見えて、これまでの教員生活ではなかなか実現しなかったことです。このような本学の知的雰囲気大きな可能性を感じています。

地域の声

宇陀市役所企画課 内田 珠里さん

宇陀市出身

2011年3月 奈良県立大学 地域創造学部 観光学科卒業



宇陀市は奈良県の北東部、大和高原と呼ばれる高原地帯に位置する、自然豊かな地域であり、市内には国宝 室生寺や宇太水分神社、重要伝統的建造物群保存地区に指定されている宇陀松山地区など歴史的資源が数多く残されています。

奈良県立大学様とは平成25年4月に連携協定を締結させていただき、ご担当の教職員の皆様による現地視察や、ゼミの一環として行っていた「室生寺ライトアップにおけるアンケート調査」など、地域活性化に資する取り組みにご協力いただいております。

私は在学中、地域の様々な活動に参加させていただきましたが、「限界集落における集落機能の実態調査」や「過疎地域における持続可能な地域づくりに関する調査」など、明確な課題を持つ地域を調査対象としていることが多いため、限定した範囲で地域を捉えていました。しかし、多くの場合、1つの自治体内に都市部と山間部が混在しており、必要とされる施策も様々であるため、地域間のバランスに配慮しながら、多岐にわたる施策を講じる必要があるということに気づきました。このように、市職員という立場に立って初めて気づくことが多々あり、改めてお互いの考えや状況を考慮し、尊重し合いながら地域づくりに取り組んでいくことの大切さを感じています。

今後は、お互いのニーズと活用できる資源を最大限に生かしながら、地域の再活性化はもとより、同様の課題を抱えた中山間地域の地域づくりのヒントとなるような成果を上げるため、教職員の皆様の地域づくりに関する知識やノウハウ、また学生の皆様の柔軟な発想力をお貸しいただき、より一層のご協力をよろしくお願いいたします。

情報コーナー



協働サロンの雑誌を4号館玄関に設置しました。

奈良や地域に関係する雑誌をメインに、幅広いジャンルの雑誌を取り扱っています。4号館にお越しの際には、是非ご利用ください。また、地域交流室では、県大生が取り組んでいる事業の成果物（例えば地図、冊子等）を取り置くようにしています。ご興味のある方は遠慮なくお声かけください。

大学情報誌『コモンズー学びの共同体ー』は、奈良県立大学地域交流センター地域交流室で発行しています。本誌は、地域交流室（4号館1階）もしくは地域交流室前に設置しているパンフレットラックに置いてあります。ご自由にお取りください。誌面についてご意見、ご感想、並びに、奈良県立大学の情報として取り上げて欲しいことなどございましたら、地域交流室までご連絡ください。



奈良県立大学
Nara Prefectural University
地域創造学部

〒630-8258 奈良市船橋町10番地

TEL 0742-22-4978 FAX 0742-22-4991

お問い合わせは 月曜日～金曜日の午前9時から午後5時まで

<http://www.narapu.ac.jp/>

「観光創造」コモンズ

「都市文化」コモンズ

「コミュニティデザイン」コモンズ

「地域経済」コモンズ

奈良県立大学情報誌 Vol.3 (2014年7月25日発行)

発行：奈良県立大学地域交流センター地域交流室 (TEL 0742-93-5296)